

婦人会報

令和七年
立教188年 11月 2025年



天理教婦人会旭日支部

通巻557号

旭日おちばがえり団参

去る10月26日、心地よい気候の中で、御本部秋季大祭に合わせて、旭日おちばがえり団参が行われました。

大祭終了後に西礼拝場にておつとめを一手一つにつとめ、それぞれが日々の感謝を申し上げるとともに、陽気ぐらし世界の実現を願い、教祖140年祭に向かって残りの3ヶ月を誠真実の心で通りきる決意をあらたにしました。

午後1時からは大教会4階講堂にて、3人の弁士による感話大会が開催されました。



「おちばの空気を感じ、心が洗われる思いでした」「皆でおちばへ帰れたことがうれしい」との声が寄せられました。



創立130周年記念祭 中山大亮様御揮毫 掛け軸 披露
教祖から岡本家に頂戴した赤衣 展示





感話大会



4階講堂をはじめ会議室などを会場に開催。

参加者は362名でした



1階ロビー受付にて記名



多くの方が集まり、会場は熱気に包まれました。



育成室 真剣に耳を傾ける参加者 控え室



親子会場（会議室）



感話大会の時間前後に飲み物コーナーを設け、ほっと一息ついてもらいました。
感話大会後には大教会大祭の御下がりのお菓子が配られました。

帰参者の夕べ 婦人会準備ひのきしん



夕べのつどいの
お弁当作り♪

子供たちの歌声も響き、世代を超えて心がつながる夕べとなりました。

団参前日の10月25日には本部にて青年会総会が開催され、夕づとめ終了後より大教会食堂にて、青年会の方々と帰参者の皆さんが集い、和やかな「帰参者の夕べ」が開かれました。

久しぶりの再会を喜び合いながら、笑顔と温かい言葉があふれるひとときとなりました。

感話大会

たんのう

—神様に導かれて—【要旨】

菊園分教会ようぼく 菅野 恵味子



私は現在五十七歳信仰二代目になります。幼いころからおぢばがえりや鼓笛隊、女子青年として教会に関わって育ちましたが、この歳になり「たんのう」ってこういう事かなと感じています。

高校生まで天理教ということに違和感がありませんでした。高校・短大になると、教会に行くことや元旦祭に参加することとに反発心を抱くようになりました。ですが教会に行くことで、母からは受け入れられなかったお道の話も叔母からは聞けるのです。今思うと有難い事でした。結婚、離婚、沖縄での会社経営、夫婦仲など、思いどおりにいかない出来事が重なり、心も体も限界になった時、実家に戻り修養科に入る。縁をいただきました。

修養科では、隣の席の方が頸動脈破裂で倒れ、皆でおねがいづとめをつとめる中、奇跡的に命を助けていただく御守護を目の当たりにし、おぢばは教祖のいらっしやるどころなのだと感じるようになりました。また、次の期の方へ初めておさづけを取り次がせていただきました。今まで自分本位でやりたい放

題のこんな私のおさづけで良いの？と私自身葛藤がありました。が、お昼休みにはひのきしんに励み、時間が許す限り御本部の先生の講話を聞かせていただきました。私なりにほこりを払わなきゃと一生懸命でした。その方も次第に症状が落ち着き二人で抱き合って喜んだのを覚えています。この修養科生活の中で、目の前で起こることは、今の自分に必要なことだと思えるようになりました。

卒業後は菊園分教会に住み込ませていただき、婦人会例会と月次祭を休める就職先も決まりました。三年千日を通らせていただく中「必ず成程という時が来る」「今の困難は神様が私に必要なと与えてくださっている」「神が見ている気を鎮め」を自分に言い聞かせながら通ってきました。現在は長年の夢であつたサロンを運営しながら派遣で保育士をしています。

天理教教典第八章に、「たんのうは単なるあきらめでもなければ、辛抱でもない。日々いかなることが起ころうとも、その中に親心を悟って、心を引きしめつつ喜び勇むことである。かくて、身上のさわりも事情のもつれも、己が心の糧となり、これが節となって、信仰は一段と進む。これを『節から芽が出る』と諭される。」とあります。今の私には、これから先も起きてくるであろう様々な出来事を、すぐに喜びにかえて、とはなかなか難しいことではありますが、少しでもたんのうの心を治められるよう、どんな中も親神様を信じ、親の思いを思索しながら、これからも明るく勇んで、歩んでいきたいと思っています。

かしまの・かりもの

—主人の身上を通して—

【要旨】

道野元分教会会長夫人 山村 信子



私達の体は自分のものであると思いますが、そうではなくこの世と人間をお創りくださった親神様のものであり、それを私達人間が借りている、神様の方から言えば、貸している、かしまのかりものの教理です。かしまのかりもののお話は何度となく聞いてきました。しかし何回も聞くのでつい右から左へ通り抜けていたように思います。まだまだ自分の中に治まってはいないと思いますが、ほんの少し気づきがあった経験をお話します。

三年前、主人である会長が食道がんの手術を受けることになりました。事前に医師から具体的な説明を聞く中で、胃を伸ばして食道の代わりにするという人体の仕組みに驚きました。こんなにも緻密に働き、互いに助け合える体を創ってくださった親神様のお働きに会長と二人感動を覚えました。また、十数年前に母が脳梗塞で麻痺を残しながらも、周りの神経が補い合い歩行を取り戻した姿を思い出し、改めて体は親神様が動かしてくださっていると感じました。会長の手術は長時間に

及びましたが無事に終わり、声帯への影響が心配される中でも声が出ました。治療中も会長は月次祭を欠かさず、大事なおつとめを何としてもという会長の強い信念を感じ、会長の思いに添っていいように思えました。

夫婦・親子の関係も神様からの「借りもの」であり、陽氣ぐらしへ向かう為に縁ある者を繋ぎ貸してくださったのでしょうか。思い通りにいかない子育ても、私の性分を軌道修正して下さる親心なのだと気づきました。親子だけでなく人との関係も借りものということでしょう。人から物を借りたら大切に使いますよね。人間関係も借りているとなれば一人一人を大切に接する。大切に言葉をかける。そして体の中で助け合いが行われているのと同じように、たすけあけ合って補い合って、相手との違いを認め尊重し合っていたら陽氣ぐらしの世の中に少しでも近づいていくのではないのでしょうか。会長はよく「病氣になって手術したお陰で気づいた事、得たものが大きいんや。陽氣ぐらしに向かう道中まだまだ伸びしろあるで〜」って神様言うてくださると思う。自分の知らない自分がまだあると思うたら、この先どうなっていくのか楽しみではない」と嬉しそうに言います。そんな会長の言葉に勇みをもらい、新たな気づきを得ます。

三年前論達の発布があり、三年千日何があっても全て親心！喜んで通ろうとの思いで今日にいたります。年祭を共に向かえさせていただける喜びをかみしめて、これからも嬉しい気持ちで通らせていただきたいと思います。

つくし・はこび

―親の声は素直に―【要旨】

天産分教会長 松浦 葉子



大教会奥様より感話大会のお声をかけていただき、驚きと戸惑いの中でしたが、「親の声は素直に」、という会長の姿を思い出し、今日この場に立たせていただきました。

この「三年千日」は、一人一人が心の成人を目指して御教えの実践に励む旬です。今年の委員長講習会で「つくし・はこび」を学びました。道のためにつくし、真実をはこびことは、心だけでなく形としても現れるものだと感じます。その形がお金や品物、身体的な行いであっても、神一条に基づく真実の心が伴ってこそ、神様に受け取っていただけるのです。つくし・はこびは、日々御守護くださる神様へのご恩返しの実践であると聞かせていただきます。

信仰を心のたよりとしてきた母のお陰で今の幸せがあります。嫁いでも、困難な道中も常に「親に喜んでもらう道」をひとすじに精一杯道を繋いでくださった祖母の深い親心のお陰で今の大きな喜びがあります。

天産分教会の会長になり七年になりますが、その中で、参拝される方の名前の御供だけでなく家族の人数分も重ねて御供されるという光景があります。教会に参拝されるのは、い

つもその方だけではなく、重ねての御供は毎回でした。その方の息子さんは最初は信仰に横向きでしたが、やがてその方のお出直し後、「父の後について信仰させてもらいます」と心の成人を示され、親の歩みが次の世代に受け継がれる不思議な御守護を目の当たりにしました。私もちょっと無理をして始めました。教会の名前と子供の名前の御供を重ねて…。

その中、昨年夫である天満会長が突然の身上をいただきました。不安な私を、教会のことを、三人の子どもたちがそれぞれ精一杯支えてくれました。一生懸命に道を走ってくださる会長のおかげで、親と同じ道を歩いてくれる姿を見て、あの少しづつの無理が！と驚きました。「つくしはこびを親神様、教祖に受け取っていただければ、難儀しようと思っても難儀できない程の御徳。お金では買えない目に見えない御徳をいただける。」との言葉が頭に浮かび、胸が一杯になりました。信者様方のお願いづとめのおかげで会長は手術する事もなく、御守護いただきました。命拾いさせていただいた恩返しをと、御用を精一杯つとめる会長の姿に、年祭の大切な旬をいただき本当にありがたいと思います。

教祖百四十年祭はすぐそこまで迫ってきています。教祖に安心していただきお喜びいただけるよう最後まで勇んでまいりましょう。神様はいつも見守ってくださっています。気付けるか気付けないかで大きく道が別れます。信じて通る所に神様は必ず手を引いてくださいます。神様でありがたい。信仰つてすばらしい。みなさんも勇んで共にまいりましょう。

旭日おぢばがえり団参

感話大会

感想

～年祭にむけての思い～

三年前の教祖百四十年祭のお打ち出しの時、真柱様の親心溢れる論達に感銘を受け、身の引き締まる思いと同時に、何をさせていただこう、どう歩ませていただいたら良いのかと我が身の年齢や、信者さん達の高齢化を考え、つい勇み心より不安が先に立ってしまいました。

そんな私に神様は大きな節をお見せくださいました。とても元気で、毎日看護の仕事をしていただいていた信者さんが、健康診断で引っかけ余命宣告される大病と判りました。御本人は大きなショックを受けられましたが、延命治療はしないと決められ今日まで日参を続けてくださっています。手足が不自由になりましたが、月次祭には片

手ですり鉦をされ、他の信者さん達もその姿に勇ませていただき、年祭に向け精一杯ひのきしんをしてくださっています。

私も毎日おさづけを取り次がせていただく中、「あしきはらい…」と唱えさせていただく度、我が身の心使い、ほこりを積んだお詫びをさせていただき、助けていただいているのはむしろ私の方だと感じます。

六月の旭日大教会百三十周年には、親々の理を戴き、ただ有り難く、信者さんと喜び一杯で帰らせていただきました。道中喜べない時も、勇めない時も、神様は背中を押してくださいます。秋の大祭での真柱様の尊いお言葉や、おぢばがえり団参で力をいただき、感話大会での会員の皆様方のお話に勇みと勢いをいただき、残りわずか年祭までの日を、教祖に喜んでいただける様、頑張らせていただきたいと思います。

菊生委員長 南 美津江

令和7年度

みちのだい育み塾 ご案内

今年度は「おつとめについて ②」

- 。かぐらつとめの理と教会月次祭の理について 学ばせていただきたいと思います。

昨年の、みちのだい育み塾では 「おつとめについて ①」

- 。おつとめの 心構え
- 。何のためにおつとめをするのか
- 。おつとめを つとめることで大切なことは何かを、グループトークをしながら学ばせていただきました。

決して難しい勉強会ではありません。今よりも少し 信念 と意義を持って おつとめをつとめることができるよう、共に成人させていただきたい、そのような思いで 開催をいたします。分かりやすく やさしく楽しくと 思っておりますので、お誘い合わせ ご参加ください。

対象年齢10代から50代くらいの方々にご参加いただきたく、またお誘いいただきたく ご案内を申し上げます。

後継者係

日時	11月24日（月・祝）	12時30分	受付
		13時	開講

場所 旭日大教会

内容 おつとめについての勉強会②

対象 茜の会・さくら会・女子青年・若い婦人会員

持ち物 ハッピー 筆記用具

十二月例会案内

日時 十二月五日（金） 午前十時

場所 旭日大教会

内容 教祖祭

お願いづとめ

ておどり（前半下り）

大教会ひのきしん

昼食



女子青年例会案内

日時 11月24日（月祝）

10時集合15時半解散

内容 月次祭参拝、コーヒーション

みちのだい育み塾 受講



女鳴物練習

月次祭終了後、13時から14時、1号館2階で、

女鳴物の練習をさせていただきます。

ご希望されます方は、教会を通して22日までに

鳴物係へご連絡下さい。

※琴希望の方は琴爪をご持参下さい。

十二月例会役割

扈者	森下由紀子	吉田 せつ
賛者	辻 花子	岩崎 千鶴
指図方	山崎さとえ	
地方	前半	
笛	大野美	
ちゃんぽん	大野美	
拍子木	鷺尾	
太鼓	鷺尾	
すり鉦	戒場	
小鼓	戒場	
琴	大牧	
三味線	大牧	
胡弓	大牧	

十一月月次祭炊事当番

教会	直轄	神菅	斑鳩
係員	谷口 茂美	荻原 知美	

◇係員の方は午前九時十分、会員の方は午前九時十五分までにエプロン三角巾を持参の上お越し下さい。

十一月月次祭託児ひのきしん当番

教会	城久
係員	岩崎真理子

◇午前九時より祭典終了までです。



遙か心持つて

他人の事思うやない。遙か心持つて、日々楽しみ
という心治めてみよ。

(おさしづ 明治31年11月12日)



発行日 令和七年十一月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部